

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271600510		
法人名	医療法人社団 寿光会		
事業所名	グループホーム いきいきの家成田		
所在地	千葉県成田市宝田362-2		
自己評価作成日	令和3年3月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和3年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

成田空港や成田山新勝寺、大規模なショッピングセンターが近くにあり便利な場所に位置する。一方ホーム周辺は山や川、田園地帯が広がりとても長閑である。開設15年を経過したが建物内は清潔で明るく、あたたかい雰囲気を維持するよう心掛けている。H27年8月にグループ施設である介護老人保健施設エスポワール成田が隣に開設し、医療の連携やイベント開催など交流を深めている。介護職員は、基本理念の内容をよく理解しケアに実践している。法人担当者、管理者による職員面談を行い、事業所運営のあり方についての意識合わせを進めている。入居者や職員の手による壁画などが温かみを感じさせ、ホーム全体の環境も快適に保つよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム いきいきの家成田」は成田空港・成田山新勝寺・ショッピングセンター等が近隣にあり、利便性に富んだ環境の中にある施設である。施設内は、バリアフリーとなっており、エレベーターの設置や介助スペースが確保されていると共に、1階のユニットにはリフト浴槽が設置されており、入居者の身体状況や安全面に配慮した設計となっている。グループ施設の介護老人保健施設エスポワール成田が隣設しており、医療連携やイベント開催等を通じて交流を深めている。また、地域行事への参加・ボランティアの受け入れ・地域の商店の利用等、様々な形で地域住民と接点を持ち、入居者の生活活性化に繋げている。しかし、3月以降は新型コロナウイルス感染対策の為、散歩やドライブは行っているが、外出会や交流活動は中止している。しかし、家族の面会については、窓越し面会に対応しており、法人季刊紙「フォーシーズン」や居室担当者が日々の様子を綴った「生活レポート」を郵送し、入居者の日々の様子や行事開催時の様子を写真入りで家族に伝えている。

Ⅶ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の基本理念は開所時の職員が考え作り上げた。また、法人としての理念もあり、常に念頭に置きケアにあたっている。入職時に管理者が理念を理解してもらえるよう説明し、それに沿って入居者様の支援を行えるように考えている。	「いつまでも自分らしくいられる生活」という施設理念を掲げており、事業所内に掲示すると共に、ホームページに記載おり、内外の人達への理解浸透を図っている。また、研修や会議で都度触れ、全職員への理念の再確認や意識共有を徹底している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事には、入居者と清掃活動などで参加している。近所の酒屋・米屋さんに配達を依頼しホームを知って頂くきっかけとしている。	自治会に加入しており、近隣住民とは気軽に挨拶を交わす間柄となっている。また、地域行事やごみゼロ運動に参加する等、地域交流に取り組んでいる。実習生受け入れ等を通して、世代間交流の機会も設けている。しかし、今年は新型コロナウイルス感染対策の為、地域との交流は中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者との関わりを話し合い、今後の課題として行く。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果を関係者に配布し、会議の中で出された意見をもとにしてケア向上を職員全員で取り組んでいる。会議で外部評価を公表し明らかになった改善点を課題とし、話し合いを行う。	市職員・地域包括支援センター職員・入居者・家族・職員等を構成員として、年6回、運営推進会議を開催している。会議では施設活動の報告や意見・情報交換等を行い、施設の理解促進に努めると共に、挙げた意見をサービスの質向上に活かしている。今年度は新型コロナウイルス感染対策の為、構成員と書面でやり取りを行い、連携を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会を通じホームの運営、考え方や実態などを伝えている。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行っていると共に、運営推進会議等にて、意見・情報交換を行う等、連携を図っている。また、成田市・栄町グループホーム・小規模多機能連絡会に参加しており、会議を通じて、市と意見・情報交換を行う等、相互に協力する関係を構築している。今年は新型コロナウイルス感染対策の為、外部の研修や会議等は中止になっており、電話やメールで連絡を取り合う形で連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修などへ参加し、何が身体拘束となるかを確認している。身体拘束排除、マニュアルを整備し身体拘束排除における意義を職員全員が理解共有している。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備すると共に、内部研修の実施や外部研修への参加啓発を行う等、全職員に向け、身体拘束排除の理解促進を図っている。また、定期的に身体拘束廃止委員会を実施しており、適切な支援に繋げている。今年は新型コロナウイルス感染対策の為、リモート研修受講に切り替える等、研修参加の機会確保に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加、また日ごろのケアの中で何が虐待になるのかを折に触れ、伝えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加、事例を通して権利擁護について学び、理解を深める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に重要事項説明書にそって説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様が日々生活する中、職員との会話やご家族の面会時の会話の中より改善に取り組んでいる。また、意見箱を設置している。	家族の面会時や電話連絡等を活用すると共に、運営推進会議開催時に直接家族の意見・要望を確認している。定期的に「フォーシーズン」や居室担当者が日々の様子を綴った「生活レポート」を発行し、活動を伝える等、施設の透明性確保及び施設理解の促進に取り組んでいる。挙げた意見・要望においては、申し送りや日誌等にて周知・検討の上、適切な対応を図っている。今年は新型コロナウイルス感染対策の為、家族との面会では中止しているが、窓越し面会に対応し、家族との繋がりを継続的に支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部運営者や管理者による面談の機会がある。	ケアカンファレンスを通して、利用者の支援に関することも含め、職員の意見・要望を確認している。挙げた意見・要望・情報等は会議に検討を図り、支援や運営に反映させている。内部研修の実施・外部の研修への参加啓発及び研修費用の支援等、研修参加の機会を確保し、施設や地域のサービス向上を目指した人材育成に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得への費用補助や習得後の手当てがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部の研修に積極的に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	成田市ケア会議、グループホーム連絡会を通じて情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どんな小さなことでも、入居者様の言動を気に留め安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず見学を実施し、ご家族からの意見集約を心掛けている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家成田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援を見極めることは重要な課題であるので、いつでも相談を受けられる体制を整えている。今までの生活状況や今後施設生活での要望、不安、困っている事などを伺うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや新聞折りなど、あらゆる場面で参加の声掛けを行い、利用者が負担と感じない程度に手伝って頂く事で活躍の場を増やしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも報告を怠らず、より良いケアができるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の取次ぎ、外出など出来るように支援している。友人の来所は制限なく、積極的な受け入れをしている。 現在はコロナ過の為、面会を自粛のお願いをしている。	友人・知人・家族等の来訪を随時受け付けており、馴染みの人との関係継続を支援している。また、地域で行われる行事等の参加や散歩の実施により、馴染みの関係が築けるよう支援している。グループ施設である介護老人保健施設エスポワール成田が隣設しており、イベント開催等の交流を通して馴染み関係の継続及び新たな馴染み関係が生まれ、入居者の生活活性化に繋がっている。しかし、今年の4月以降は、新型コロナウイルス感染対策の為、友人・知人・家族等の来訪受け入れは中止している。現在は、窓越しの面会で対応しており、相互の関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で、お互いを気遣う事ができるよう努めている。リビングでの席も入居者様の関係を配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葬儀などにも参加し断ち切らない姿勢を示している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや意向は、日常の行動や表情から汲み取ることが多く、それを基に本人と話をしたり、意思疎通の困難な方の場合は、家族から情報を得て把握に努めている。	入所前に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、医療機関や他の事業所からの情報提供を受ける等、詳細な情報の把握に努めている。入所後も会議・連絡帳・申し送り等を活用しながら、職員間で意見交換や情報共有を行い、本人本位の生活が送れるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送りにて現状を把握している。定期バイタル測定やその時の様子・記録から適切な対応が出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを通し、個々の意見やご家族の意見などを反映している。	本人・家族の意向を基に、職員間で検討しながら介護計画の作成を行っている。必要に応じて、医師等の意見も取り入れながら状況判断を行っている。定期的に計画の達成状況の確認、評価、見直しを行っており、現状に応じた介護計画の作成及び支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康状態(バイタル・食事量・排泄の有無・水分量など)をチェック・記載し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制が整っている。また、往診にて医師や看護師の訪問がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの導入や訪問理容室がある。消防機関には避難訓練などの指導・助言を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医への受診も可能。また、希望者には、内科医・歯科医の往診、訪問マッサージも行っている。	協力病院の他、希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、定期的に内科医や歯科医による往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。また、訪問看護の看護師による健康管理・服薬管理・医療面における相談や対応等も行われており、入居者・家族・職員等の不安解消に繋げている。その他、必要に応じて、訪問マッサージの利用も可能になっており、身体機能の維持及び向上に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度程度、系列施設より看護師の訪問がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ早期に退院できるように情報交換や相談に努め、入院によるダメージを最小限に抑えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族やかかりつけ医などと繰り返し話し合い、方針を共有している。	契約時に終末期・看取りに関する施設方針を説明し、家族から同意を得ている。必要時には、医師・看護師・職員間で検討を行いながら方針を決め、家族の意向に沿った終末期・看取りの支援を行えるよう体制を整えている。必要に応じて、医療機関や他の介護サービス事業所への切り替えが円滑に行われるよう、関係機関との協力体制も整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てずに対応するため、緊急時マニュアルを用意している。対応方法は定期的に確認・指導している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施している。	災害時マニュアルが整備されており、避難経路図の掲示や非常階段等、複数の避難経路が確保すると共に、スプリンクラー・火災報知器・自動通報装置等の消防設備を設置し、災害時・緊急時に備えている。定期的に消防避難訓練及び設備点検を実施している。訓練では、消防署に届け出の下、夜間想定訓練、消火器訓練等を実施しており、状況に応じた避難方法を身に付けている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者への尊敬の念を重視し、居室には勝手に入らない、個人の名前で呼ぶなどプライバシーに配慮している。また、心無い言葉掛けで利用者が傷つかないように十分に注意を払っている。	プライバシー保護や接遇に関する研修を定期的に実施しており、入居者一人ひとりのプライバシーと尊厳を大切にしている。また、個人情報保護についても、研修・会議を通して、周知徹底を図っている。日常生活では、一人ひとりに合わせた言葉掛けや支援に努め、その人らしい生活の実現に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や散歩など、本人の希望をお聞きしながら実施している。利用者が発言や物事を選びやすいよう「〇〇と□□どちらにしますか」など、選択肢を設けた声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にしている。全員で同じ事だけをするのではなく、利用者自身の希望に沿って出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた洋服を勧めるなど、その人らしい服装が出来るよう支援している。また、2ヶ月に一度ホーム内で理美容が受けられるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が入居者様と食卓を共にし、食事に関する情報を得ている。また、身体能力に応じて準備や片づけをお願いする。	食事の準備・配膳・片付け等は可能な限り、入居者と一緒に行っている。献立の作成及び食材の配送を業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。また、定期的に外食・行事食・手作りおやつ等を実施しており、食に対する楽しみを支援している。現在、新型コロナウイルス感染対策の為、外食は中止しているが、テイクアウトの活用や手作りおやつで食事レクの充実を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託により管理栄養士が栄養バランスを確保している。食事量・水分量は入居者様毎に毎日チェックしている。好き嫌いや、嚥下状態に合わせ、食事状態は適宜見直し、入居者様に合わせた提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施。利用者の状態に合わせ、声掛け・準備・介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄が継続できるように、また、夜間のみポータブルトイレを使用してもらうなどの支援を行っている。	排泄チェックリストを活用し、個々の排泄パターンを把握しており、声かけやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。水分や食事量チェックの活用・献立の工夫・体操の実施等、適切な排泄習慣の確保に取り組んでいる。必要に応じて、医師や看護師の指示を得ながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目指し、食事・水分の摂取状況を把握すると共に、運動も積極的に努めている。また、必要に応じ個別に下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望で入浴を支援している。浴用リフトを導入しており、身体の負担が少なく入浴できる。	入居者の希望や体調に応じて、柔軟に対応している。必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴等に変更する等、入居者の清潔保持に努めている。なお、1階のユニットにはリフト浴槽が設置されており、身体状況に応じた入浴支援も可能となっている。また、柚子湯や菖蒲湯等を実施し、季節感を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔な環境で、部屋の明るさ・室温の調整を行い、安心して気持ちよく入眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をもとにコンプライアンスを重視している。また、誤薬を防止するために与薬の際は2名での確認作業を必ず行っている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家成田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯物たたみ、新聞折り、散歩、体操等入居者様が楽しんで参加できるものを提案している。自分の得意分野で力を発揮できるよう、職員は個々の得意・不得手について把握し支援するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出行事を実施、散歩や買い物などで外出出来るよう支援している。	日頃から、近隣の公園への散歩・商店への買い物・地域で行われている催し物への参加等、戸外に出る機会を設けている。季節に応じて、お花見やドライブ等を行っており、入居者の楽しみとなっている。今年は新型コロナウイルス感染対策の為、外出や交流活動は中止しているが、散歩や敷地内での活動は継続的に実施しており、入居者の気分転換や生活の活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様によっては家族の同意のもと、所持(少額)されている方もいる。買い物に出かけたりして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する際には施設の電話を使用して頂き、家族や友人と話せるように、手紙が書けるように支援している。携帯電話を持ち込み使用されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こたつを設置したり、よしずでの暑さ対策などを行っている。入居者様の好きな音楽・懐かしい音楽・心地よい音楽を流し、リラックスできるようにしている。	各ユニットの共有スペースにはテーブル・ソファ等が設置されており、入居者が自由にくつろげる環境整備がなされている。また、入居者の作品や行事の写真が掲示されており、明るく楽しい雰囲気作りを施している。施設内はバリアフリーとなっていると共に、エレベーター等の設置もされており、入居者の身体状況に配慮した環境整備がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の畳スペースがあり、また、ソファでゆっくり語らい過ごせる。玄関先にもベンチを設置し、外の空気をすったり、花を眺めたりと寛げるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様は、仏壇やテレビ、使い慣れた家具を持ち込むことが出来る。家族写真や思い出の品を飾る事で入居者様が居心地良く過ごせるよう支援している。	入居者の希望により、馴染みの物を自由に持ち込む事が可能となっており、入居者が安心して居心地良く過ごせるように配慮している。また、畳やカーペット等を敷く事も自由となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。全居室に収納スペース・鍵・呼び出しボタン等を設置しており、プライバシー確保及び安全面に配慮した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を心掛け安全に生活できるよう配慮している。トイレ、風呂場はイラストや文字で分かるようにしている。手すりなども設置している。		